

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎作業学演習		必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小川 麻里子 他	C315	m.ogawa	木曜日 9:00~13:00		
授業の目的・概要	作業療法の治療技術である「作業・活動」について理解し、対象者に作業が適切に選択できるようになることを目的とする。作業療法と作業の関係を明らかにし、作業分析の考え方と分析方法を講義で示し、それを踏まえて、実際に作業を体験し、具体的に分析する。最終的に、対象者に合わせて作業選択できるようにする。本講義は、同時双方向型授業にて実施し、課題などは授業時間内にフィードバックおよび意見交換を行う。				
学習上の助言	解剖学・生理学・運動学などの基礎科目に加え、基礎作業学実習や評価学などの専門基礎科目の復習をしておくことが望ましい。				
教科書	標準作業療法学 基礎作業学第3版/編:濱口豊太/医学書院 (2017)				
参考書	作業療法学全書 基礎作業学/編:澤田雄二/協同医学書局 (2009) ひとと作業・作業活動 新版・作業の知をとき技を育む/著:山根寛/三輪書店 (2019)				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	作業療法と作業の基本概念について説明できる。			OT (2)	
②	作業分析の理論と方法が説明できる。			OT (2)、(3)	
③	作業療法において、作業が適切に選択できる。			OT (2)、(3)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション、作業と治療を理解する [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	教科書 p4~31 を読む。	1	
2	作業バランス、ライフスタイルの変化に伴う作業の特徴について学ぶ [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	教科書 p28~31 を読む。	1	
3	作業に関連する実践モデルを学ぶ (人間作業モデルを中心に) [担当:池谷 政直]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
4	作業分析について学ぶ (運動機能的作業分析) [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
5	作業分析について学ぶ (精神・心理的作業分析) [担当:池谷 政直]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
6	包括的作業分析を行う [担当:池谷 政直]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
7	包括的作業分析を行う [担当:池谷 政直]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
8	動作・作業分析 (ADL) について学ぶ [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	教科書 p80~87 を読む。課題プリントの復習。	1	
9	動作・作業分析 (IADL) について学ぶ [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
10	治療援助としての作業について学ぶ [担当:池谷 政直]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
11	作業の治療への適用について考える (グループワーク) [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
12	作業の治療への適用について考える (グループワーク) [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
13	作業の治療への適用について考える (グループワーク) [担当:小川 麻里子]	同時双方向型 授業	課題プリントを用いた予習・復習。	1	
14	治療としての作業の応用を学ぶ (発表) [担当:池谷 政直]	同時双方向型 授業	配布資料・課題プリントを用いた予習・復習。	1	
15	治療としての作業の応用を学ぶ (発表) [担当:池谷 政直]	同時双方向型 授業	配布資料・課題プリントを用いた予習・復習。	1	
試	筆記試験				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		60	0	30	0	10	100	
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50	
	思考・推論・創造する力	10	0	10	0	0	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5	
	問題を発見・解決する力	0	0	10	0	0	10	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	定期試験 (60%) で評価する。第 1~7 回目の内容を中心に出题する。				テストの返却をおこなう。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	第 14、15 回の事例発表の内容 (20%) およびプレゼンテーション能力 (10%) で評価を行う。評価内容は、授業内で配布するルーブリックにしたがって実施する。				講義内で実施する。ルーブリックにおける自己評価及び教員評価。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	グループワークにおける取り組み姿勢を評価する (10%)。評価内容は、授業内で配布するルーブリックにしたがって実施する。				講義内で実施する。ルーブリックにおける自己評価及び教員評価。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>担当教員：◎小川 麻里子、池谷 政直</p> <p>提出課題に関して、教科書の丸写しやネット、友人からのコピー等は不可とし、これらが発覚した際には未提出とし、再提出を求める。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。また、動画視聴や課題のダウンロード等があるため、通信容量制限がある場合は通信量に十分注意すること。</p> <p>Teams クラスへの入室が 5 分以上遅れた場合は、遅刻扱いとし、授業開始 20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。</p> <p>教員の実務経験：作業療法士免許を有した後、10 年以上の臨床経験を有する。</p> <p>実践的授業の内容：教科書に基づいた講義だけでなく、教員の臨床経験を活かして実際の事例を通して動作・作業分析を実施し、臨床実習へ向けた臨床での視点の一部を学ぶ。</p>								